



Title	集中プログラムにおけるコンピュータクラスの実践
Author(s)	永井, 智香子; 守山, 恵子
Citation	長崎大学留学生センター紀要. vol.12, p.15-25; 2004
Issue Date	2004-06-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/5602
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-26T16:33:27Z

集中プログラムにおけるコンピュータクラスの実践

永井 智香子*

守山 恵子**

[キーワード] : コンピュータクラス、日本語入力、インターネットのリソースサイト

1. はじめに

長崎大学留学生センター（以下「留学生センター」とする）では、省令施設として設置された1996年より、日本語集中プログラム初級クラスに在籍する留学生のためのコンピュータクラスを開講してきた。

開講当初は、コンピュータの使い方そのものやEメールの送り方を学ぶことなどを中心とした授業であった。急速に進むコンピュータの普及により、来日する留学生のコンピュータ操作能力は期を追って高くなり、また、コンピュータ技術の進歩の結果、インターネット上でできることの可能性も広がってきた。その結果、コンピュータクラスの授業内容も変わってきた。現在はMicrosoft Wordを使って日本語入力の練習をすることとインターネットを使って日本語での専門用語を学習することが中心になっている。そこで、本稿では、コンピュータクラスの変遷をたどるとともに、現在実施している授業の内容を報告し、若干の考察を行うことにしたい。

2. コンピュータクラスの目標の変化

まず、今までのコンピュータクラスを簡単に振り返ってみたい。担当者によって大きく3つの時期に分けることができる。96年度後期から98年度後期まで、次に99年前期から2001年後期まで、そして、2002年前期から現在までの3つである。

最初の担当者の時には次の4つの目標が定められた。1. コンピュータの操作をできるようにする。2. 日本で通常使用されるコンピュータに関する言葉になれる。3. 日本語の入力をできるようにする。4. 電子メールを使えるようにする¹⁾。このときは、情報処理センターのコンピュータ室を使用していた。現在のコンピュータクラスの内容と重なるのは、3の「日本語の入力をできるようにする」ということだけである。この当時は、来日以前にコンピュータ

を操作した経験がない学生もあり、まず、操作に慣れるように指導することが重要だったのである。

1999年度には、留学生センターのコンピュータ室が整備され、「日本語演習Ⅲ」として日本語学習の中に位置づけて、留学生センター教員が担当し、コンピュータクラスを開講するようになった。

1999年度前期の授業記録によると、目標は以下のようである。

コンピュータの基本操作、かな・漢字入力、文節変換の方法などを学びながら、文字の認識力および読み能力を高める。また、修了発表時の資料作成が簡単に行えるように、プレゼンテーション用ソフト（パワーポイント）の使い方を一通り習得する。（「1999年度前期授業記録」『長崎大学留学生センター紀要』第8号）

パワーポイントの使い方が新たに加わったこと、日本語入力に一層時間を使うようになったこと、電子メールに関することを取り上げなくなったことが大きな変化であると言える。また、同じ授業記録の「結果と課題」にはキーボードの操作が初めてだった学生がいて、そのような学習者への指導をどうしたらいいかという問題提起がなされている。

2002年度前期からはコンピュータクラスの担当が筆者らに変わった。日本語集中プログラムの最後に行う専門の発表の準備状況からも、学生のコンピュータに対する知識やコンピュータ操作の習熟度がそれまでと比べ大きく変化していることは明らかだった。そこで、コンピュータの操作方法などの指導に時間を割かずに、かな学習、日本語入力の指導に重点を置くことにした。また、インターネット上に翻訳サイトなどが増え、留学生が各自の専門に関わる日本語の用語の検索などをするのに役に立つと思われたので、その紹介と使い方の指導を加えることにした。インターネットリソースサイトを使って、各自に日本語での専門用語のリストを作成させ、学期の最後に行う専門の発表に結びつけた。それまでとの違いのひとつは、パワーポイントの指導に時間を割くことをやめたことである。パワーポイントに関しては、使い方をよく知らない学生もいるが、学生同士で教えあったり、必要なことの指導を受ければ、すぐに使いこなせるようになるようである。また、授業時間も週に1回から、1学期に7回と隔週にした。

3. 現在のコンピュータクラスの内容

現在、コンピュータクラスの内容は大きく3つに分けることができる。

- ①かな自習用ソフトの紹介とそれを使っての練習
- ②日本語入力 of 練習
- ③リソースサイトの使い方の指導と各自の専門用語（日本語）のリストの作成

以下、それぞれの内容を説明する。

3-1 かな自習用ソフトの紹介とそれを使っての練習

日本語自習用ソフトの紹介は每期第一回目の授業（90分一コマ）で行っている。

この授業の目標は学習者が日本語自習用ソフト「黒帯」²を使って、ひらがな・カタカナの認識練習や数字の読みの練習、および聞き取り練習をすることである。「黒帯」はひらがな、カタカナ、単語、漢字、簡単な挨拶、簡単な会話が学べるようになっている自習用ソフトである。留学生たちが日本語のクラスでかなの学習を一通り終え、日本語の初級文型を学習し始めた時点で、この「黒帯」を紹介する。すべての練習は、実際にその音も聞けるようになっている。さらに、復習用のテストもついており、自分で自分の力を確認することもできる。

授業の方法は、以下のとおりである。まず、筆者らがソフトのデモンストレーションをしてから、各自に練習させる。練習をしている間に、それぞれの学習者に使い方の補足説明をする。聞き取り練習にはヘッドホンを使用させる。

学生は毎回、「黒帯」の聞き取りテストをクイズ感覚で楽しんでいる。コンピュータクラスでは、どの学生も興味を持って練習をするが、そのあと、空き時間に自由に練習できるようにしているにもかかわらず、練習をしないと申し出る学生はほとんどいない。集中プログラムは進度が速く、学生には「黒帯」を使った自主学習をする余裕がないのかもしれない。

3-2 日本語入力の練習

日本語入力の練習は、期のスケジュールによって、90分3コマから4コマを

使っている。日本語入力の練習がすべて終わるころには、学生の日本語学習も初級の後半に入っていて、ある程度長い文章が打てるようになっている。

3-2-1 日本語入力の1コマ目のクラス

このクラスの目標は、ひらがなとカタカナをWordを使って打てるようにすることである。日本語入力はローマ字入力で行う。この授業では、まず、コンピュータクラスの前担当者が作成した「かな練習」1~8を練習させる。

「かな練習」の内容は以下の通りである。

- 1：ひらがな1（単音）
- 2：ひらがな2（2拍または3拍の清音のみの単語）
- 3：ひらがな3（2拍または3拍の濁音を含む単語）
- 4：ひらがな4（撥音）
- 5：ひらがな5（促音）
- 6：ひらがな6（拗音）
- 7：カタカナ
- 8：練習問題（ひらがな・カタカナ交じりの短文をうつ）

個人によって進度に差があるので、基本的には個人指導となる。「かな練習」を終えた学生から順次自己紹介文を打つよう指示する。

毎回、学生の中には、促音と拗音の打ち方をマスターするのに苦労するものが多い。また、ひらがな練習でも、この段階では打つことよりも、まず、読むのに時間がかかる学生もいる。カタカナ練習になるとその傾向はさらに強まり、学生によっては、50音表に頼らざるを得ないものもいる。

自己紹介文を書き始めて、わけがわからないまま、ひらがなが漢字に変換されてしまう学生もいるが、漢字が正しければ、そのままにしている。

3-2-2 日本語入力の2コマ目のクラス

このクラスの目標は、漢字変換ができるようになることである。ただし変換する漢字は漢字入門クラスですでに習っているものに限定する。

このクラスでは漢字の変換の練習問題を10問（例1参照）と漢字まじりの質問文をコピーしてから、知ってる漢字を使ってその答えを打つという練習問題を20問行う（例2参照）。

例1 あしたはきんようびです。

例2 日本このべんきょうはなん時からなん時までですか。

→

この練習をするときは学生は50程度の漢字を勉強している。また、日本語の勉強を始めて3週間ぐらいの時期である。漢字の変換や質問のコピーとその答えを書くことに時間がかかり、早い者で1時間、遅い者で90分（1コマ）かかる。

個人によって、打つ速度に差があり、また、漢字を変換する適切なタイミングや方法の選択に戸惑うこともあるが、どの学生も時間内に課題をやり終える。

3-2-3 日本語入力の3コマ目のクラス

このクラスの目標は、ある程度まとまった長さの文章を漢字かな混じりで打てるようになることである。

このクラスで課題として使用する日本語作文例は、読解作文クラスで教材としてすでに学んだ漢字かな混じり文（約1200字）である。この練習をするころには学生たちは初級前半の学習を終えており、動詞や形容詞の活用の基礎、基礎的な助詞も勉強している。

作業を始める前に、動詞や形容詞を漢字変換をするときの注意をする。（資料参照）

このクラスではじめて学生たちは長い文章を打つことになるが、クラスが終わるころにはずいぶんスムーズに打てるようになる。

3-2-4 日本語入力の4コマ目のクラス

このクラスでは日本語入力練習の総仕上げとして作文クラスで書いた作文を参考に入力練習をする。3コマ目のクラスでは、モデル原稿をそのまま打つ練習を行ったが、今回は自分で書いた作文を参考にして、考えながらある程度の長さのまとまった文章を打つ。

この段階でも、促音や拗音の入力の仕方があいまいになっている学生がいるが、打っているうちに思い出して、徐々にスムーズに日本語が打てるようになる。専門についての発表の原稿作成にもこの練習が直接役に立つと思わ

れる。

3-3 リソースサイトの使い方の指導と各自の専門用語（日本語）のリストの作成

留学生が専門の研究をする際に、日本語で書かれた専門用語の意味を知りたいと思っても、日本語の漢字にはいくつもの読み方があり、読み方がわからないと辞書をひくことも難しくなる。そこで、コンピュータクラスの最後の2コマで、Wordの手書き入力機能を使って漢字を入力する方法、入力した漢字の読み方を知る方法、ルビを打つ方法を指導する。さらに、インターネットを使い、各自の英語での専門用語に対応する日本語を検索し、専門用語の一覧表を作るという授業を行っている。2コマの授業の流れは以下のとおりである。

3-3-1 主に手書き入力を指導するクラス

このクラスでは読めない漢字が打てるようになることと、漢字の読み方や意味を調べることができるようになることを目標とする。

まず、中級の日本語教科書から選んだ20の漢字語彙を、WordIMEパッドの手書き入力機能を使って入力させる。入力した漢字語彙にルビ機能を使って、ルビをつける作業をさせる。

次に、ウェブサイトのインターネットリソース³の説明をする。Jeffery's Japanese-English Dictionary Server⁴、ライフサイエンス辞書⁵、オンライン学術用語集⁶のデモンストレーションと説明をする。

さらに、Jeffery's Japanese-English Dictionary Serverを使って、各自が手書き入力した20の漢字語彙の読みと意味を調べさせる。

最後に、2コマ目のクラスで使用するため、各自、英語での専門用語の語彙を20、準備することを宿題として課す。

オンラインの辞書を使用していると、思うように検索ができなかったり、速度が遅くなったりすることもある。しかし、学生たちは、常に、非常に興味深そうに取り組む。

3-3-2 専門の日本語語彙リスト作成のクラス

このクラスでは、一人一人が自分の専門で使う日本語語彙リストを作成す

ることを目標とする。

各自が宿題として準備してきた英語での専門用語の語彙に対応する日本語の漢字表記と読み方の表を作成するために、1コマ目に説明したサイトに加え、英辞郎⁷などを紹介する⁸。また、ルビふりサイト⁹やJapanese-English Dictionary Portal¹⁰を使って漢字の読み方や意味を知る方法を説明する。

各自が準備してきた英語の語彙リストに漢字と読みを加える作業は、専門についての発表に直接役に立つ。

4. コンピュータクラスの必要性

ここで、改めて、コンピュータクラスの必要性について考察してみたい。

日本語の入力の方法を身につけることは、留学生にとって、どうしても必要なことだと考えられる。レポートやレジメを作成するために日本語の文章を打たなければならない文系の学生にとっては、必須のことである。研究のほとんどを英語で行う理系の学生であっても、論文の要旨だけは日本語で打つ必要があったり、耳で聞いた日本語を打ち込み、対応する英語の用語を調べる場合もあるので、日本語入力を身につけることは重要である。

このクラスで、インターネットのリソースサイトの使い方を身につけると、専門の研究をスムーズに行う助けになる。リソースサイトを使い慣れると、自分の専門や必要にあった、コンピュータクラスでは紹介されなかったサイトを探し出す学生も出てくる。

5. 学生によるコンピュータクラスの評価

各期とも最後にはアンケート調査を実施した。Wordによる日本語入力の評価も高かったが、学生の評価が最も高かったのは、インターネットを利用した専門用語に関する授業であった。多くの学生が、専門の研究に直接役に立つと感じている。また、実際に専門の研究をはじめた学生からも、筆者らが紹介したインターネットのリソースサイトを利用しているという声が聞かれる。

中には、コンピュータクラスで練習をする時間が足りないという意見もあったが、日本語の入力練習などは、自主的にコンピュータ室を利用して行うことができるようになっている。ただ、残念ながら、自主的に練習をしたい

と申し出る学生は少ない。

6. 今後の課題

留学生センターでは、集中プログラムに参加した学生はプログラムの最後に日本語で各自の専門について発表することになっている。筆者らがコンピュータクラスで専門用語のリストを作らせるようになってから、発表会の準備状況に変化が生じた。かつては教室に置かれたたくさんの専門の辞書を引きながら、原稿を手書きで書く学生の姿が見られた。しかし、最近では準備の初日からコンピュータ室に行き、コンピュータクラスで紹介したリソースサイトを使いながら、原稿を書く学生の姿が目立つようになった。

今後も、学生のコンピュータについての知識や技術についてもできるだけ正確に把握し、クラスを改善していく必要がある。

今後は、留学生に専門の研究を行ううえで必要な日本語について、インタビュー調査をし、その結果をコンピュータクラスに反映させていきたいと考えている。

(*留学生センター助教授、**同講師)

資料

コンピュータクラス

ひらがなをかんじにかえるとき

1. どうし (verbs) ・ けいようし (adjectives) ・ ふくし (adverbs)

「たフォーム」のときは「たフォーム」の終わりまで、「です・ますフォーム」のときは「です・ますフォーム」の終わりまでうってから、かんじにかえる。

れい：いった→行った

いきます→行きます

いって→行って

いかなかった→行かなかった

おおきかったです→大きかったです

すきです→好きです

2. めいし (nouns) のあとのじょし (particles) は、まえのめいしといっしょにうつ。

れい：ひとりでいきました→ひとりで/いきました→一人で行きました

ばっくのなか→ばっくの/なか→バッグの中

→ばっくのなか→バッグの中

→ばっく/のなか→バッグ野中

3. かんじをかえたいとき、スペースバーをおすとかんじのれいがでる。

enterをおしたあと、もういちどかんじをかえたいときは、その部分を黒くしてスペースバーをおす。

4. カタカナはカタカナでかきたいところだけうって、F7のキーをつかう。

ゆうめいな人の名前、ゆうめいなところ、日本語になっている外国語から来たことばは、かんじにかえるときとおなじやり方で、スペースバーをおしてカタカナにかえることができる。

れい：たんさん (スペースバー) →炭酸・単三・単産・丹さん・たんさん
タンサン

たんさんが→たんF7→タン/さんが

れすとらんで (スペースバー) →レストランで

注：

- 1 中村千秋 (1997) 「研修コース「総合演習科目 情報処理」を終えて」『長崎大学留学生センター紀要第5号 実践報告』 pp.107-114
- 2 「黒帯」(1997) INFORTECH INC.
- 3 Internet Resources 翻訳のためのインターネットリソース
<http://www.kotoba.ne.jp/>
さまざまなリソースサイトが紹介されている。
- 4 Jeffrey's Japanese English Dictionary Server
<http://linear.mv.com/cgi-bin/j-e/jis/dict>
工学、科学、経済、法律、言語学などさまざまな専門分野を網羅している英語と日本語の双方向の辞書である。
- 5 WebLSD Online Life Science Dictionary
<http://lsd.pharm.kyoto-u.ac.jp/WebLSD/ejindex-e.html>
ライフサイエンス関係の言葉を調べるのに便利で日本語の読み方もわかる英語と日本語の双方向の辞書である。
- 6 オンライン学術用語集
<http://sciterm.nii.ac.jp/cgi-bin/reference.cgi>
さまざまな専門分野の学術用語を知ることができる英語と日本語の双方向の辞書である。
- 7 英辞郎on Web
<http://www.alc.co.jp/>
特に英語から日本語を調べるときに役に立つ英語と日本語の双方向の辞書である。
- 8 たとえば、excite翻訳などがある。
<http://www.excite.co.jp/world/text/>
機械翻訳のサイトである。英語と日本語、中国語と日本語、韓国語と日本語の双方向の辞書である。
- 9 たとえば、以下のサイトである。
ルビ振りサイト
<http://www.adaptive-techs.com/index.html>
ユーザー登録をするとメールやウェブサイトにルビを振ることができる。
- 10 Japanese- English Dictionary Portal

<http://fisher.lib.virginia.edu/libsites/japan/index.html>

日本語のウェブサイトの漢字の読みと意味を知ることができる。機械翻訳の機能もある。日本語を英語に翻訳する辞書である。